



パリアン 16 年の歴史 (最終回) 情報発信

医療法人社団パリアン理事長
川越 厚



1973 年東京大学医学部卒業。茨城県立中央病院産婦人科医長、白十字診療所在宅ホスピス部長などを経て、1994 年より賛育会病院長を務め、緩和ケア病棟を立上げる。2000 年 6 月、クリニック開業と同時に、在宅ケア支援グループ“パリアン”を設立。

情報発信は、全米ホスピス協会が作成したホスピスケアの最初の基準 (1977 年) に、その重要性が記されている。だからという訳ではないが、私たちの働きを社会に情報発信することは、パリアン創立当初から積極的に行ってきた。年代順にそれを記すことにする。

地域住民を対象とした啓発活動は創立翌年 (2001 年) の第 1 回の講演会を皮切りに、去る 2 月 4 日、パリアン主催の第 6 回公開講演会 (愛する人たちへ、最期は家で・・・。取材者が見つめ続けた「在宅ホスピスケア」の全記録) を開催した。これより規模は小さいが、パリアンボランティア主催の講演会も回をかさねている。また、地域の訪問看護師、薬剤師、病院勤務の医療者、地域の福祉職などの専門職を対象としたパリアン主催の勉強会にも力を入れてきた。

パリアンの機関誌 (パリアン通信) は 2003 年に第 1 号が誕生し、2017 年 10 月には第 71 号 (今号) を発行している。以前はボランティアが中心となって



東京大学・鉄門記念講堂での公開講演会 (2017 年 2 月)



吉良祭・元禄市での出店 (2003 年 12 月)

通信を作成していたが、現在、出版社をリタイアした編集者が当たっている。

パリアン事務所がある両国は赤穂浪士討ち入りでも有名だが、それを記念して毎年 12 月の第 2 土・日曜日に吉良邸跡 (現在は本所松坂町公園) の近くで、地域のお祭り (吉良祭・元禄市) が開かれている。パリアンも 2003 年 12 月にボランティアが中心となってお店を出した。地域の方々への PR とボランティアの活動資金を得るためであるが、両国の地から少し離れたこともあり、今は参加を見合わせている。

国際的にはホスピス ハワイ (ハワイ・オアフ島) バンクシア緩和ケアサービス (オーストラリア・メルボルン) との姉妹ホスピス提携 (2006 年 7、11 月) を結び、2007 年からそれらの姉妹ホスピスとの交流研修が始まり、その後 3 姉妹ホスピスでボランティアに関する国際共同研究 (2008 年から 2 年間) を行った。2012 年にはわが国最初のホスピスとして、全米ホスピス緩和ケア協会 (NHPCO) の affinitive member に認定された。

教育、研修も広い意味で情報発信に繋がるが、研修医の受け入れ (2005 年) 医学生や看護大学生の研修受け入れ (2001 年) を行ってきた。これまで 44 名の研修医、117 名の医学生、114 名の看護大生がパリアンでの研修実習を受けた (2017 年 10 月現在)。

連載を終了するにあたって

長期にわたった連載を、この号をもって終了する。パリアンの創立理念、歩みに焦点を合わせて、その基礎となった産婦人科医としての経験、ライフケアシステムでの学び、賛育会病院長の経験などに詳しく触れた。現在、医師になって45年。気がつけば、

その3分の2の時間が在宅ホスピス医としての働きに費やされてきた。今年古稀を迎えたが、徐々に自分自身の仕事を減らさなければならぬと覚悟している。

厚生労働省老健局振興課の方々が来院されました

去る8月1日、厚生労働省老健局の三浦(元)振興課長(来院時には医政局経済課長) 込山振興課長(三浦課長の後任)ほか、5名の方が来年度に行われる診療報酬と介護報酬の同時改定に向けて、パリアンへ現場視察にいらした。パリアンからの参加は私のほか美濃口副院長、川越博美(看護部長) 千葉(訪問看護師)、川原(ケアマネジャー)ほか数名の訪問看護師であった。計3時間の視察のテーマは、「在宅緩和ケア実践における、介護保険制度の問題」



スタッフの説明にも熱心に耳を傾けられました

であった。

プログラムは「パリアンの紹介と説明(川越)」、「ビデオ視聴 羽鳥慎一モーニングショー-そもそも総研(テレビ朝日、2016年1月28日放映) “病院で死ぬことはこれからも当たり前なのだろうか?”(抜粋)」、「パリアンの独居患者について解説(川越)」、「在宅緩和ケア実践上の介護保険制度の問題 問題提起(川越)とディスカッション」からなっており、あらかじめ準備して配布した資料を参考に濃密な意見交換ができた。

私が現場の意見として述べたことは、介護認定の結果が出るまでに時間がかかること。特に初回の審査の問題、最初の要介護認定申請で、「要支援」の判定が出た場合の問題、末期がん患者のADLの急激な低下に、介護認定が追い付かない問題、ケアマネ独走(医療者に相談せずにケアプランを決める等)が起きている、ケアマネジメントの問題、その他、であった。(川越 厚)

小さな宿泊所(有床診療所)がオープンしました

パリアン1階に設けた個室2部屋の「小さな宿泊所」(有床診療所)が9月1日にオープンし、これまで4名の患者さんがご利用になりました。その内の1人の方は10月下旬にこちらでお亡くなりになりました。病院から退院してすぐに当院に入院して3日目の深夜のことでしたが、一人息子が見守る中、穏やかに御逝去されました。

パリアンに誕生した「小さな宿泊所」につきましては、次号のパリアン通信で特集を組んで改めて詳しくご紹介する予定です。



「小さな宿泊所」の2つの個室「桜」(左側)と「若葉」

パリアンでの医学実習を終えて

家で看取るとは、患者さんが人生を完成させる支えになること

東京大学医学部医学科5年 後藤大十

パリアンにて実習をさせて頂いたことで幾つかの、かなり大きな衝撃を私は受け、終わってから暫くは頭(心)が一杯でした。というのも本実習で私は、幾つかの事柄に初めて正面から出会い、マトモに考えたのです。末期がん、死そのもの、それから家で死ぬということ、みな大学病院では出会わない事々です。

戦後70年で日本国民の平均寿命は50歳前後から80歳以上にまで延びました。私が大学で学んでいる医学もその一翼を担ったわけですが、私にとって死を真剣に意識し自分の身に引き当てるのがこんなに難しいというのは、死を遠ざけるキャンペーンの渦中に居て、いつの間にか人間の自然を忘れ、あるいは意識的に看過していた所為でもあるのか、と思ひ当たりました。

その困難を感じながら患者さん宅を幾軒も訪ねさせて頂き、僅かだけでも自分の掌に確実に握り、残ったと感じた内容は、死がその人の生の最後の総決算、人生を引き包んだ全景であり難型である、

ということ。勇気も責任感も喜びも苦悩もかなしみも、その個人が営んできた精神生活の実りが総て、最期の歩みのなかに姿をあらわしているように思われたのです。自らの死と如何に向き合うかは、築いてきた精神の在り様がそのまま反映してゆくのではないかと。

すると家で看取る仕事とは、患者さんが自分の人生を完成させる支えをすることであり、そのための最後の時間を恐怖と混乱と狂躁のうちに空費しないようサポートすることではないかと考えたのでした。

医療者として、家族や患者さんの死に立ち会う社会人として、自分もいつか死すべき人間として、これからも否応なしに抱えてゆく「死」という大問題ですが、私にとってはやっと正面から考え始める貴重な機会になりました。

素晴らしい実習をさせて頂いた、川越先生ご夫妻をはじめパリアンのスタッフの皆さま、そして患者さま方に深く感謝申し上げます。

帝京大学医学部5年生が実習

8月21日~25日に帝京大学医学部5年生4名が公衆衛生学実習を行いました。実習中は医師や看護師に同行し、訪問診療、訪問看護の現場に立ち会いました。また、患者さんやご家族とランチをともにしながら語らう「サロン・ド・パリアン」にも同席しました。学生さんからは「終末期の患者さんと相対するに際し、どう振る舞ってよいかわからず、自身の未熟さを痛感しました。今回の貴重な体験を糧として、責任と自覚を持って、学んでいきます」という感想が寄せられました。

パリアンでの学生実習にご協力いただいた患者さんにご家族に心からお礼を申し上げます。

看護学生がパリアンを見学

8月25日に慶應義塾大学看護学部の3人の学生さんがパリアンを見学しました。朝のカンファレンス、訪問看護への同行、がん患者さんやボランティアさんとのお話など、病院にはない貴重な経験をしたということでした。「自宅は、人生を作り出してきた大切な場所であり、たとえ寝たきりであっても、思い出が詰まった空間がそこにはあり、医療者は、管理する人間ではなく、生活に関わらせていただく存在として、ケアができるのだと分かりました」「『治療する』ことが大前提の大学病院で実習している看護学生にとって、『治療をしない』選択をする患者さんのお話を聞いて、非常に貴重な経験となりました」など、これからの医療へのかかわりの中で生かしていきたいという感想が寄せられました。



芝田葉子さん作

パリアンスタッフ紹介

緩和ケアは患者さんの自律尊重が基盤

「訪問看護パリアン」緩和ケア認定看護師 佐藤博子



この8月に、パリアンにカムバックしました。2009年に入職して、2013年の3月までパリアンで訪問看護師をしていました。私が入職した頃のパリアンには、がんセンターでバリバリに働いていたとかPCU(緩和ケア病棟)でやっていた、という看護師さんばかりで、私のように「訪問看護だけやってきた、ちょっとだけ末期の方を担当したことがある」レベルの看護師はいませんでした。川越厚先生にミーティングなどでいろいろご指導いただくのですが、先生のおっしゃっている哲学がわからない。それでも、負けん気とエネルギーはありましたから、訪問の現場に行って頑張っただけで、うちに多少はわかってきました。ところが、今度はわかったことで悩みが出てくるのです。ミーティングでもわかったようなことを言うと見透かされて、「何がわかったというのだ」と先生からよく雷を落とされていました。

そんなこんなで2年が経過し、3年目からパリアンが江戸川区に新しく立ち上げた支所を任されることになりました。支所の看護師は私だけだったため、本部のスタッフといろいろなことを分かち合うことがほとんどなく、一人で背負いこんでいたような気がします。江戸川支所を任されて2年目に入ったばかりの夏、母にがんが見つかりました。母はそれから8か月後に亡くなりましたが、その間も江戸川で訪問看護をやり、実家に帰って母の身の回りの世話

をしたり、手術に立ち会ったりの日々でした。結局1月に入って母の病状が進行して両立が難しくなって、パリアンを退職しました。

母は4月に亡くなり、そこからはバーンアウトです。くたくたでもう訪問看護もやめよう、別の職のために資格を取ろうと考えました。でも、半年くらいたって自分を見つめる余裕が出てきたのでしょうか、ふと自分は訪問看護が大好きだということ思い出しました。そこで地元の訪問看護ステーションで仕事に就いたのですが、「この医療は？」と首をかしげることが多かったですね。そんななか、緩和ケア認定看護師の取得というテーマが拳がってきて、その時に推薦状をお願いするとしたら川越先生だと思って、退職してから3年後にパリアンに伺って書いてもらいました。

その後、川越先生に声をかけていただいてパリアンにカムバックしました。パリアンの在宅ホスピス緩和ケアの今を見てみたい、私もいろいろな経験を積んだから、違うものが見えるような気がしたので、でも、まだまだですね。緩和ケアが探究していることの一つは、その方の自律尊重だと理解するところまではたどりつけたように思います。今日も訪問してきましたが、患者さんが何を言おうとされているか、自分の思いが先走って患者さんの自律の邪魔をしていないかを自問しながら看護をしています。川越先生の言う、その人らしさを全うする生き方を支える、ということを考えながらの日々です。

「がん対策アクション&ピンクリボン in すみだ 2017」に参加しました

9月25日~29日に墨田区役所で開催された「がん対策アクション&ピンクリボン in すみだ 2017」にパリアンも参加しました。このイベントは墨田区が、がんの予防や早期発見・治療から緩和ケアまで、幅広く区民の方に知っていただくために、9月のがん征圧月間・10月の乳がん月間に合わせて毎年開催しています。パリアンはがん患者さんが家で安心して過ごすにはどうしたらよいかを知っていただくために、パネル「家で過ごしたいがん患者さんへ」の展示と相談ブース「がん患者の在宅ケアの相談」を設けました。

がんのどの段階でも地域の支援は数多くあります。パリアンはこれからも墨田区の在宅緩和ケアの充実に貢献していきたいと考えています。



パリアンスタッフ講演・講義予定

講演者	開催日	会	演題	会場
川越 厚 川越博美	10月3日	医療社会事業従事者 研修会	在宅緩和ケアの実際—病院と地 域をつなぐ、困難事例を中心に—	東京都庁
本田晶子 川越博美	10月7日	第41回死の臨床研究 会年次大会	在宅緩和ケアにおけるケアマネ ジメントのあり方に関する研究	秋田県民会館
川越 厚	10月10日	ZTE 朝食会講演	在宅緩和ケアの現状と課題	日中友好会館 (文京区)
川越 厚	10月12日	NHK 大学セミナー 弘前大学	ホスピスケアと医の原点 - 在宅ホスピス医になって気づ いたこと -	弘前大学
川越 厚	10月20日	板橋区医師会学術講 演会	地域包括ケアにおける、緩和ケア 提供の問題	板橋区医師会館
川越 厚	10月22日	癌治療学会市民公開 講座	「それぞれの癌」と共に、「それ ぞれの生」を生きる 第3部 それぞれの生を支える 4.最期ま で寄り添う在宅緩和医療	パシフィコ横浜
川越 厚	11月4日	NHK 大学セミナー 東北医科薬科大学	患者とその家族を支援する医療	東北医科薬科大学 (仙台市)
川越 厚	11月5日	がん哲学外来小金井 メディカルカフェ	在宅ホスピスケアと医の原点	小金井福音キリスト 教会
川越 厚	11月12日	広島医学会総会 県民公開講座	在宅ホスピスケアと医の原点	広島医師会館
川越 厚	11月14日	愛恵福祉支援財団主 催公開講座	死を看取るために家族に必要な こと	北とびあ (東京都北区)
川越 厚	11月15日	小岩地区ケアマネ連 携の会	在宅緩和ケア ~ 自宅での看取り ~	小岩区民館 (江戸川区)

フェイスブック (<https://www.facebook.com/hospice.pallium>) でも予定を随時お知らせしています。

川越厚医師出演番組

ラジオ NIKKEI のホームページで、川越厚医師が出演した番組をオンデマンドで聴くことができます。

大人のラヂオ

ラジオ NIKKEI 第1金曜日 11時35分~12時30分 <http://www.radionikkei.jp/otona/>

10月27日放送 「ルターの宗教改革から500年」ルーテル学院大学教授・牧師 石居基夫先生
聞き手：川越 厚

日曜患者学校

<http://www.radionikkei.jp/inochi/>

パリアン実習・研修

実習日	所属	実習・研修名	人数
9月、10月	日本財団在宅看護センター起業家育成事業第4期生実習(3日間)		4名
10月~12月	墨東病院	地域医療研修(4日間)	4名